

(臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 動脈瘤性くも膜下出血発症 15 日目以降に発生した脳血管攣縮のリスク因子の検討

[当院研究責任者] 部署名 脳神経外科 氏名 中島 拓真

[研究の背景] 脳血管攣縮はくも膜下出血の治療にまつわる合併症で確実な治療法がいまだ知られておらず、それまで順調でもこの合併症により予後が悪化する可能性のある重篤なものです。脳血管攣縮の大半はくも膜下出血(SAH)発症後 14 日以内に発現するとされていますが、実際には発症 15 日目以降に予期せぬ脳血管攣縮に遭遇し、抗攣縮治療の延長を要することもあります。しかし、その患者群の特徴について検討した報告は乏しく、どのような方で通常よりも遅く脳血管攣縮が発症する可能性に注意するべきかは明らかになっていません。

[研究の目的] 発症 15 日目以降に脳血管攣縮を発症した患者群の背景疾患・手術方法・使用薬剤などを調査し、遅発性の脳血管攣縮に注意するべきリスク因子を特定することを目的とします。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2009 年から 2018 年の 10 年間に当院で外科治療を行った動脈瘤破裂によるくも膜下出血で入院された患者さん

●研究期間：倫理委員会承認日から 2019 年 10 月 31 日

●利用する検体、カルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、既往歴、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査）、手術方法（開頭術あるいはコイル塞栓術）、退院時の評価など

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報

は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

公立陶生病院

所属部署 脳神経外科 氏名 中島 拓真

電話 0561-82-5101